

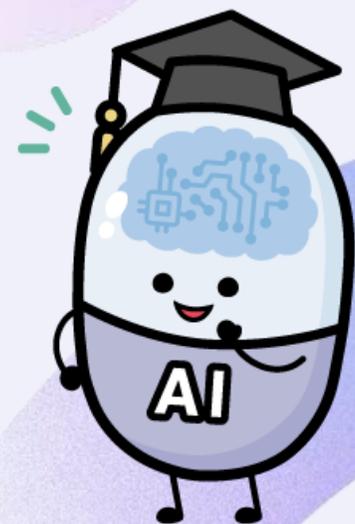
# AI連携ライセンス(AL)のご紹介

生成AIベンダーとの契約や管理製品を準備することなく、  
すぐに生成AI機能を使える便利なライセンス

# 目次

1. AI連携ライセンス(AL)のご紹介
  2. お客様の「困った」を解決するALの力
  3. ALで使える生成AI連携機能のご紹介
  4. AI連携ライセンスご利用の流れ
- 付記1 AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項
- 付記2 よくある質問

# 1. AI連携ライセンス(AL)のご紹介



## AI連携ライセンスとは

# 生成AI連携を、もっと身近に WinActor「AI連携ライセンス(AL)」登場！

WinActorはVer.7.5より、生成AIとの連携機能を標準搭載したことで、シナリオ開発や運用が格段に効率化しました。

さらに、従来のRPAでは自動化が難しかった「判断を伴う非定型業務」にも対応できるようになりました。

そして今回、その生成AI連携機能を より手軽に、より柔軟に 活用いただけるよう、新ライセンス「AI連携ライセンス(AL)」をご提供します。

ALを導入することで、生成AIの力を最大限に引き出し、業務効率化・自動化の幅をさらに広げることが可能です。

## WinActor × 生成AI = AL

この組み合わせが、業務改革の新たなスタンダードになります。

ぜひこの機会に、ALの導入をご検討ください。

## 1-1. AI連携ライセンス(AL)の特長

### 1. 追加費用なしで、すぐに生成AI連携が可能です

- ALに、生成AI(Azure OpenAI)を利用する契約が組み込まれているため、個別の契約は不要で、すぐに生成AI連携機能をご利用いただけます。

### 2. フローティングライセンス方式で、ライセンスを効率的に使えます

- フローティングライセンス方式のため、端末を固定せず複数の端末で自由に利用できます。いろいろな部署でお試しいただけます。
- ALに、NTT-ATが管理するライセンス管理サーバーの利用が含まれているため、お客さま側でライセンス管理製品を準備する必要はありません。



## 1-2. WinActorのライセンス種類



### ノードロックライセンス(NL)

PCごとに  
インストールして利用  
PC1台からスモールスタート

生成AI連携機能の利用には、生成AIベンダーとの別途契約が必要

(例)NLを2ライセンス利用中の場合



### フローティング ライセンス(FL)

管理製品と組み合わせて、  
どのPCでも利用できる  
管理製品が必須

(例)FLを2ライセンス利用中の場合



### AI連携ライセンス(AL)

管理製品なしで、  
どのPCでも利用できる  
PC1台からスモールスタート

生成AIベンダーとの別途契約が不要

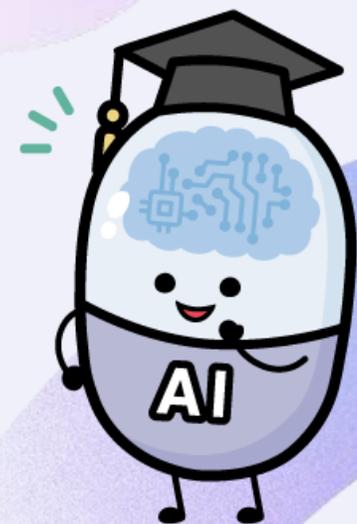
(例)ALを2ライセンス利用中の場合



\*利用予定の全ての端末にWinActor(FL)のインストールが必要

\*利用予定の全ての端末にWinActor(AL)のインストールが必要

## 2. お客様の「困った」を解決するAIの力



## 2-1.生成AIの契約不要で、生成AI連携機能を利用可能！

### 導入前

生成AIベンダーとの契約が必要だ

機密情報を扱う業務でも、安心して生成AIを  
使える方法はないだろうか？



### 導入後

- AI購入だけですぐに生成AI連携機能を使用できた！
- データを生成AIの学習に利用しないため、情報漏洩のリスクなく安心して利用できる

生成AI、契約いらずで即活用



## 2-2.フローティングライセンス方式！ライセンスをチームで有効利用

### 導入前

ライセンスを無駄にしたいくない。  
使いたいときに使える  
柔軟なライセンスはないものか…

複数のRPAを導入したいけど、  
管理製品の準備が面倒、費用もかかるし…



### 導入後

- 管理製品いらずのフローティングライセンス方式で、すぐにRPAを導入できた！
- ライセンスをみんなで共有できるから、必要なときに必要な人が使える！
- 少ないライセンス数から始められるので、まずは気軽に試せて安心！

RPA導入のハードルが、  
ぐっと下がった！



## 2-3.生成AI活用で非定型業務も自動化へ。RPAの可能性を広げる新常識

### 導入前

シナリオ作成は初めてで不安

※ シナリオ:業務手順を記録したもの

FAX注文書・手書き申請書など、紙資料の  
数値を社内システムに自動投入したい



### 導入後

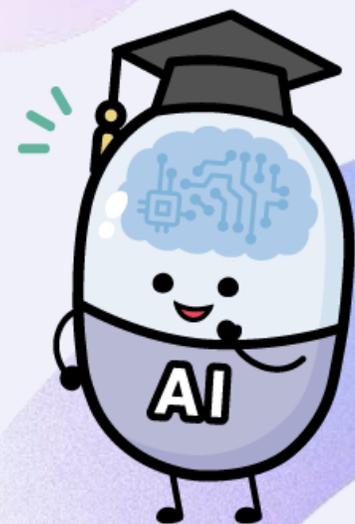
- 生成AIとの対話で、シナリオのひな形が  
すぐにできる！（シナリオひな形作成）
- 帳票フォーマットの自動認識でシナリオ  
作成が簡単に！（帳票操作の簡単化）
- 画像から直接データ抽出できる！  
（シナリオ内生成応答利用<画像認識>）



手軽にシナリオ作成が  
できるようになった！



### 3. ALで使える生成AI連携機能のご紹介



## 生成AI連携機能のラインナップ (2025年9月時点)

### ① 対話によるシナリオひな形作成

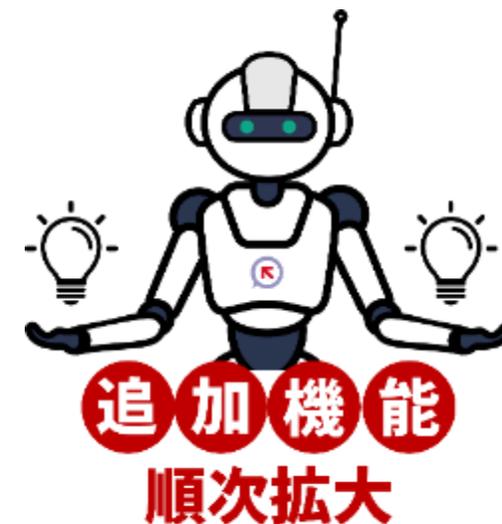
- 生成AIが作成したシナリオのひな形を、対話により修正・追加しブラッシュアップ
- はじめてのシナリオ作成でも簡単に作り上げることが可能

### ② 帳票操作の簡単化

- 生成AI連携で帳票を読み込ませることで、バラバラのフォーマットの帳票でも、フォーマットを意識することなく、簡単にシナリオ作成
- 帳票内容を自動で認識・整理できるため、スピーディなシナリオ作成が可能

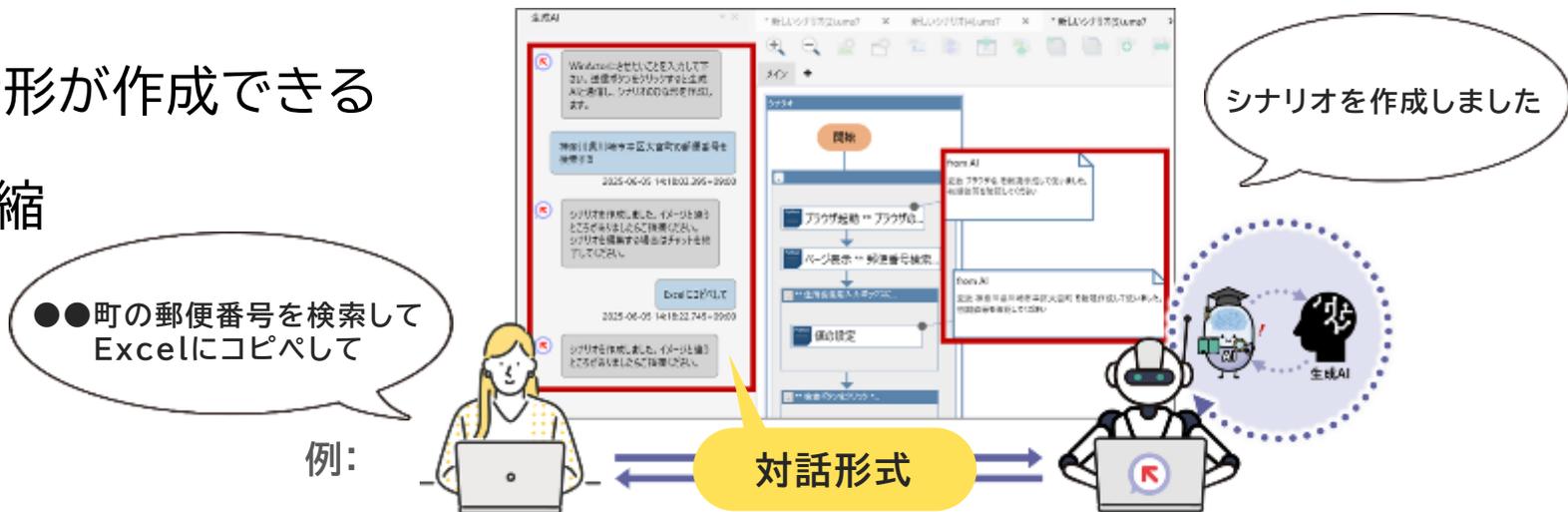
### ③ シナリオ内生成AI応答利用 (テキスト生成、画像認識)

- 問合せ回答案作成や要約、AI翻訳などテキスト生成を対象とした自動化が可能
- 画像認識(画像内データの抽出など)も可能
- これにより非定型業務を含めた自動化を実現



## 3-1.対話形シナリオひな形作成 / AIと対話しながらシナリオを作成

- チャット形式でシナリオのひな形が作成できる
- ゼロから作る時間を大幅に短縮



### ■ 期待できる効果 シナリオ作成のハードル低下

対話形式で指示をするだけでシナリオのひな形ができる

### ■ 期待できる効果 業務の標準化と属人化解消

誰でも同じ品質でシナリオ作成ができるようになり、特定の担当者への依存を減らせる

### ■ 期待できる効果 適切なライブラリ設定の促進

生成AIがシナリオ内容に合わせたライブラリの選択や設定ヒントを提示してくれるため、最適な設定が容易

### ■ 期待できる効果 シナリオ作成時間の劇的な短縮

対話形式での効率的なシナリオ作成支援により、開発期間が大幅に短縮される

## 3-2. 帳票操作の簡単化

- 生成AIが帳票の内容を理解し、変数名とその値、位置情報などを抽出
- バラバラなフォーマットの帳票内の、値や表のフォーマットを意識することなく、簡単にシナリオ作成可能
- 帳票操作の専用ライブラリによって、多数の帳票処理をこれまでより高速処理可能



### ■ 期待できる効果

#### 作業時間の大幅な短縮

バラバラなフォーマットでも意識することなくデータ化してくれる

### ■ 期待できる効果

#### 細かく意識しなくても

生成AIが帳票の内容を理解し抽出してくれて、表部分の行数なども意識せずにシナリオ作成が可能になった

### ■ 期待できる効果

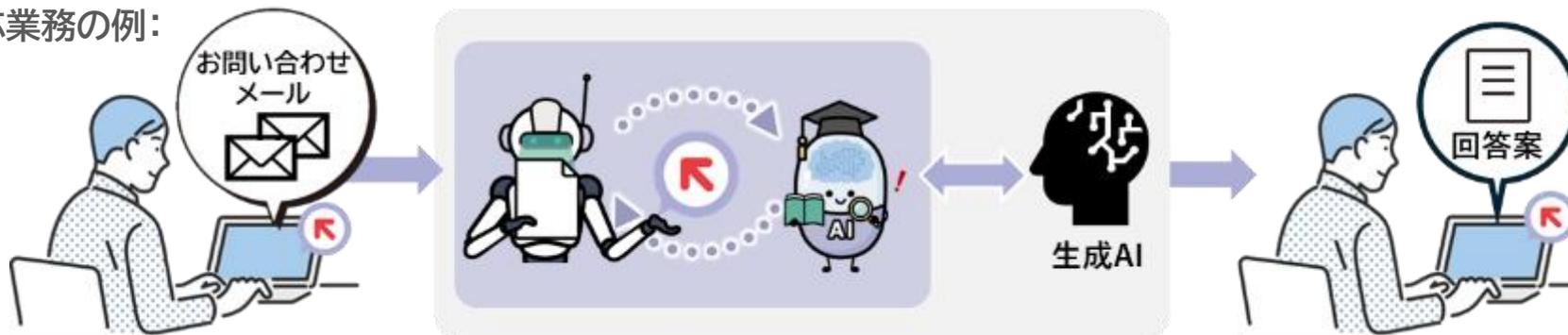
#### 入力ミスの削減、稼働削減

ヒューマンエラーがなくなり、大幅な稼働削減が実現

### 3-3. シナリオ内生成AI応答利用の例：テキスト生成

シナリオの中で生成AIと直接やりとりを行うことで、問い合わせ対応（メールへの回答作成など）や文書の要約・翻訳が可能

問い合わせ対応業務の例：



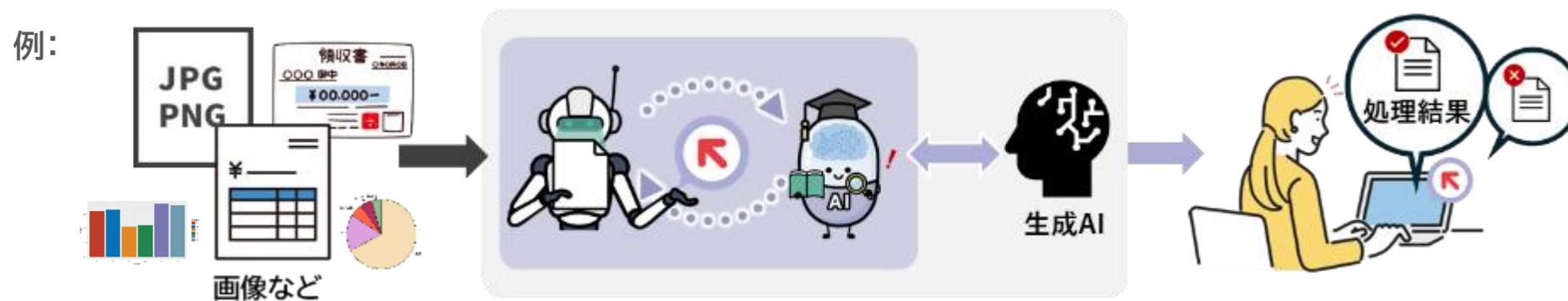
期待できる効果

**稼働削減**

1件毎に問い合わせに対して回答を作成するのは、かなり手間と時間がかかるが、生成AI連携により回答案を確認し、回答送信はWinActorで自動化することで大幅な稼働削減が実現

## 3-4. シナリオ内生成AI応答利用の例：画像認識

生成AIに指示を与えることで、画像にあるさまざまなデータの理解・抽出が可能  
生成AIが抽出したデータのシステム転記やExcel保存など、非定型業務を含めた自動化を実現



### 期待できる効果

#### 業務の自動化と効率化

FAXや手書きの申請書などから必要な情報を生成AIが自動で認識・抽出し、WinActorと連携してシステムへの入力までを自動化

### 期待できる効果

#### 稼働削減・ストレスの軽減の向上

手入力による稼働が大幅に削減され、ストレスが軽減  
ヒューマンエラーがなくなる

### 期待できる効果

#### 生産性の向上

非定型業務を自動化  
処理時間の短縮

## 4. AI連携ライセンスご利用の流れ

## AI連携ライセンスご利用の流れ

ALのインストーラーはFLのインストーラーを利用いただきます。  
AL専用のサーバー接続情報を設定いただくだけで、利用開始できます。

### ① インストール

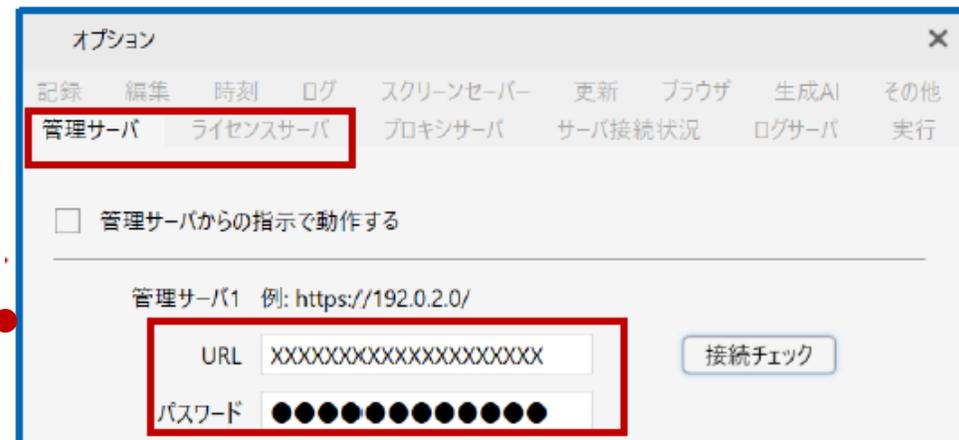
FLのインストーラーを利用いただきます。

② WinActorを起動し、  
[オプション]-[管理サーバ]&[ライセンスサーバ]に  
サーバー接続情報(URL、パスワード)を設定

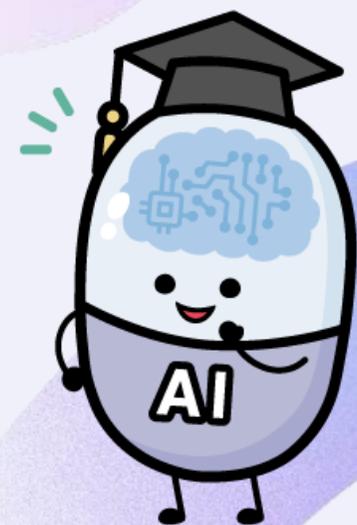
サーバー接続情報は、ALの「ライセンス証書」に記載されます。

③ [ツール]- [外部サービス連携]-[生成AI連携]で  
「シナリオの作成にNTT-ATが契約するAzure  
OpenAIを利用する」をチェック

④ 契約開始日以降、AL利用スタート



# 付記1 AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項



# AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

WinActorソフトウェア使用許諾書、およびWinActor公式サイトに今後記載されるサービス内容、提供条件等をご確認ください。

## 1. 利用条件等

- AL利用端末から、NTT-ATの管理サーバーへのインターネット接続(HTTPS通信)が必要です。
- WinActorソフトウェア使用許諾契約書に、NTT-ATがマイクロソフトとの契約に基づき提供する生成AIサービスの利用に関する条項が追加されます。ご利用に際しては、本使用許諾契約書への同意が必要となります。
- WinActor公式サイトに、ALの「サービス提供条件」を掲載いたします。

<https://winactor.biz/rpa/winactor-license.html#al-service-condition>

ご利用にあたって必要なお客様社内での手続きは、ご利用社毎に実施ください。

## AI連携ライセンス利用上の条件・制約事項

### 2. 生成AI利用量について

- 2026年10月以降、生成AI利用量の上限が設定されます。  
(上限に達した場合は、追加パックのご購入により利用量を増やすことができます。)
- 2026年9月末まで、生成AI利用量の上限はありませんが、リクエスト過集中により一時的に利用不可になることがあります。(時間を空けてリトライいただけます。)

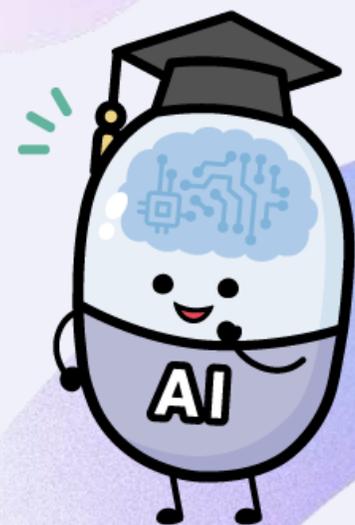
### 3. 生成AI利用量のカウント方法

生成AI連携機能の「利用回数」を利用量としてカウントします。

「利用回数」とは、WinActorから生成AIに問い合わせる回数です。トークン数ではありません。

また、利用量のカウントは2026年10月に開始します。したがって2026年9月末までの利用量はゼロと計算されます。

## 付記2 よくある質問



## 付記:よくある質問

ライセンスの運用について	
質問	回答
ALは、ユーザーが契約している管理機能製品でも管理できますか。	いいえ。ALで動作するWinActorは、お客様の管理機能製品ではご利用できません。
サーバーメンテナンス等、ALが利用できないタイミングはありますか。また、そのようなメンテナンス情報はどこで確認すればいいですか。	はい、メンテナンス等により、ALのご利用に影響が生じるケースが発生する場合があります。 そのようなメンテナンスを実施する場合は、日程が決まりましたら事前にWinActor公式サイトでご案内します。
生成AI利用について	
質問	回答
2026年10月以降に設定される生成AI利用量の「上限値」の内容を教えてください。	生成AI利用量の上限値については、準備が整い次第ご案内します。
ALユーザーは、自身の生成AI利用量をどのように確認できますか。	利用量の上限値が設定される2026年10月以降に、確認可能となります。確認方法の詳細は、準備が整い次第ご案内します。



WinActor®はNTTアドバンステクノロジーの登録商標です

WinActor®が、  
仕事を変える。  
あなたを変える。  
組織を変える。

